

## 参考データ集

### 国際石油開発帝石株式会社

2015年(平成27年)11月11日

### 連結子会社および持分法適用関連会社

#### 連結子会社 67社

主な連結子会社	国(地域)名	出資比率	ステージ	決算期
ジャパン石油開発	アラブ首長国連邦	100%	生産中	3月(仮決算)
ナトゥナ石油	インドネシア	100%	生産中	3月
サウル石油	チモール海・共同開発地域	100%	生産中	12月
INPEX Ichthys Pty Ltd	オーストラリア	100%	開発中	3月(仮決算)
インペックス南西カスピ海石油	アゼルバイジャン	51%	生産中	3月(仮決算)
インペックス北カスピ海石油	カザフスタン	45%	生産停止中	3月(仮決算)
INPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd	オーストラリア	100%	開発中	12月
INPEX Gas British Columbia Ltd.	カナダ	45.09%	生産中/評価中	12月

#### 持分法適用関連会社 20社

主な持分法適用関連会社	国(地域)名	出資比率	ステージ	決算期
MI Berau B.V.	インドネシア	44%	生産中	12月
Angola Block 14 B.V.	アンゴラ	49.99%	生産中/開発中	12月
インペックス北カンボス沖石油	ブラジル	37.5%	生産中	12月
Ichthys LNG Pty Ltd	オーストラリア	62.245%	開発中	3月(仮決算)

# セグメント情報

2016年3月期第2四半期(2015年4月1日～2015年9月30日)

(単位:百万円)

	日本	アジア・オセアニア	ユーラシア (欧州・NIS諸国)	中東・アフリカ	米州	計	調整額 (注1)	連結財務諸表計上額(注2)
売上高	51,110	167,608	41,103	300,425	6,765	567,013	-	567,013
セグメント利益 又は損失(△)	1,964	61,597	12,260	179,911	△3,788	251,945	△5,157	246,787

(注)1 セグメント利益の調整額△5,157百万円は、セグメント間取引消去101百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△5,259百万円が含まれております。全社費用の主なものは、報告セグメントに帰属しないのれんの償却及び一般管理部門にかかる費用であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2

# LPG売上高

	15年3月期第2四半期 (2014年4月-9月)	16年3月期第2四半期 (2015年4月-9月)	増減	増減率
売上高(億円)	109	55	△53	△49.2%
販売量(千bbl)	1,361	1,168	△193	△14.2%
海外生産分平均単価(\$/bbl)	78.36	39.14	△39.22	△50.1%
国内生産分平均単価(¥/kg)	100.79	71.93	△28.86	△28.6%
平均為替(¥/\$)	102.48	121.39	18円91銭円安	18.5%円安

地域別販売量(千bbl)	15年3月期第2四半期 (2014年4月-9月)	16年3月期第2四半期 (2015年4月-9月)	増減	増減率
日本	2 (0.2千ト)	3 (0.2千ト)	0 (+0.0千ト)	12.8%
アジア・オセアニア	1,358	1,165	△193	△14.2%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	-	-	-	-
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	-	-	-	-
合計	1,361	1,168	△193	△14.2%

3

# 利払い・償却・探鉱費前利益(EBIDAX)

(百万円)	15年3月期第2四半期 (2014年4月-9月)	16年3月期第2四半期 (2015年4月-9月)	増減	備考
親会社株主に帰属する純利益	88,747	45,485	△43,262	P/L
非支配株主に帰属する純損益	1,773	△6,165	△7,938	P/L
減価償却相当額	65,678	65,331	△347	
減価償却費	25,635	35,109	9,474	C/F コンセッション契約及び販管費に係る減価償却費
のれん償却額	3,380	3,380	-	C/F
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	36,663	26,842	△9,821	C/F PS契約に係る減価償却費相当額
探鉱費相当額	20,411	23,765	3,354	
探鉱費	15,508	4,093	△11,415	P/L コンセッション契約に係る探鉱費
生産物回収勘定引当金操入額	4,902	18,022	13,120	P/L PS契約に係る探鉱費相当額
探鉱事業引当金操入額	1	1,650	1,649	P/L PS契約に係る探鉱費相当額
重要な非現金項目	1,650	8,012	6,362	
法人税等調整額	△388	6,745	7,133	P/L
為替差損益	2,038	1,267	△771	C/F
税引後ネット支払利息	△2,867	△1,495	1,372	P/L 税引後の支払利息一受取利息
EBIDAX	175,392	134,933	△40,459	

4

# 生産物回収勘定の増減推移

(百万円)	15年3月期第2四半期 (2014年4月-9月)	16年3月期第2四半期 (2015年4月-9月)
生産物回収勘定(期首)	685,990	703,291
増加:		
探鉱投資	20,447	22,325
開発投資	68,137	63,867
操業費	46,419	35,954
その他	3,216	6,686
減少:		
コスト回収(CAPEX)	36,663	26,842
コスト回収(Non-CAPEX)	66,358	56,246
その他	513	1,219
生産物回収勘定(期末)	720,675	747,817
生産物回収勘定引当金	130,201	139,491

5

# 原油価格・為替レートのセンシティブリティ(1/2) **INPEX**

※2015年5月14日時点

## ■ 油価・為替変動の2016年3月期当期純利益に与える影響額(注1)

油価1ドル上昇(下落)した場合(注2)	+30億円(△30億円)
為替(円/US\$)1円 円安(円高)になった場合	+12億円(△12億円)
<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 営業損益部分(注3)</li> <li>➢ 外貨建資産・負債の評価差損益部分(注4)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>+19億円(△19億円)</li> <li>△7億円(+7億円)</li> </ul>

(注1) 原油価格(Brent)の1年間を通じた期中平均価格が1ドル上昇(下落)した場合、為替が1円円安(円高)になった場合の、2016年3月期の当期純利益に対する影響額を、当年期初時点における財務状況を基に試算したものであり、あくまでも参考値であること、また影響額は、生産量、投資額、コスト回収額などの変動により変わる可能性があり、加えて油価及び為替の水準により、常に同じ影響額になるとは限らない点にご留意ください。

(注2) 油価変動が当期純利益に与える影響であり、原油価格(Brent)の1年間を通じた期中平均価格の影響を受けます。

(注3) 為替変動が当期純利益に与える影響であり、期中平均為替レートの影響を受けます。

(注4) 期初時点の外貨建資産・負債の差額に対する為替の影響であり、前期末と当期末の為替レートの差の影響を受けます。期初時点では、外貨建負債が外貨建資産を上回っている状況であるため、円安が進行すると為替評価差損、円高が進行すると為替評価差益が発生しますが、次頁の通り、ドル建て債券の償還により、当期中には、センシティブリティがゼロに近づく見通しです。

6

# 原油価格・為替レートのセンシティブリティ(2/2) **INPEX**

## 当社の外貨建資産・負債の為替管理

- ◆ 当社の外貨建資産・負債は、実質的にはバランスしております(下図ご参照)。
- ◆ 但し、一部の外貨建資産はドル建債券(下図緑色部分ご参照)で保有しており、当該部分の円安による含み益(円高進行時は含み損)は損益計算書には反映されず、貸借対照表の純資産の部「その他有価証券評価差額金」に計上されております。
- ◆ ドル建債券は、2016年1月までに全て償還され、償還金はドル預金で保有する予定です。このため、2016年3月期中に、損益計算書上、為替差損益を発生させる外貨建資産・負債は徐々に均衡し、評価差損益部分のセンシティブリティはゼロに近づくことを見込んでおります。



7

# 2016年3月期 販売量・投資額(予想)

INPEX

2016年3月期予想		5月14日時点	11月10日時点	増減	【参考】 第2四半期累計実績
販売量	原油 (千バレル) <sup>1</sup>	119,854	117,224	△2,630	57,805
	天然ガス (百万cf) <sup>2</sup>	322,271	331,427	9,156	160,634
	うち海外分	252,417	264,177	11,760	131,909
	うち国内分	69,854 (1,872百万m <sup>3</sup> )	67,250 (1,802百万m <sup>3</sup> )	△2,604 (△70百万m <sup>3</sup> )	28,725 (770百万m <sup>3</sup> )
	LPG (千バレル) <sup>3</sup>	2,747	2,737	△10	1,168

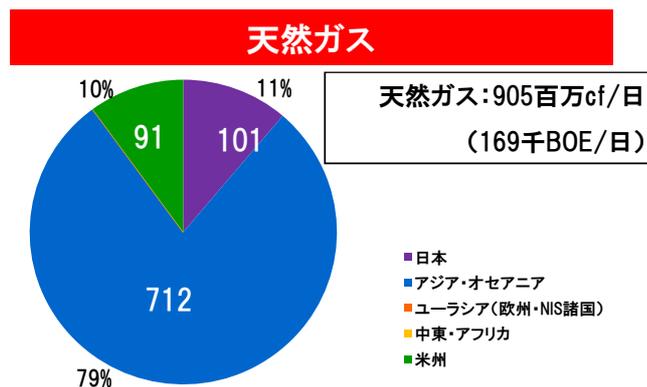
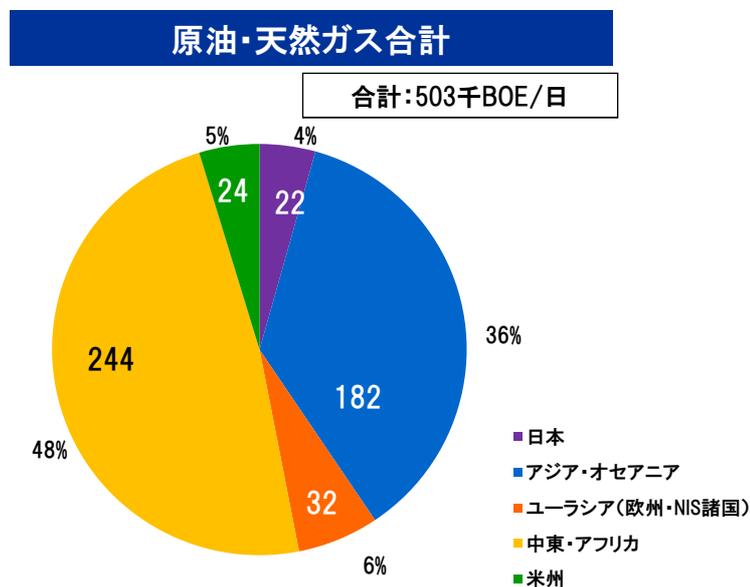
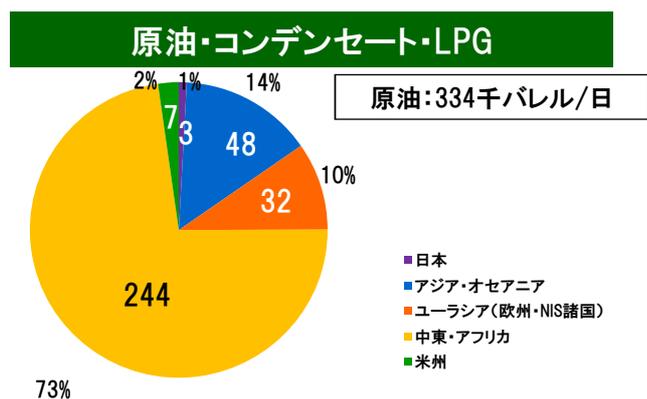
開発投資額 <sup>4</sup> (億円)	9,890	9,790	△100	4,981
その他設備投資額 (億円)	380	480	100	137
探鉱投資額 (億円)	570	440	△130	279
探鉱費および 探鉱関連引当額 <sup>5</sup> (億円)	探鉱費 131 探鉱関連引当額 280 411	探鉱費 109 探鉱関連引当額 248 357	△54	探鉱費 41 探鉱関連引当額 196 237
うち非支配株主持分負担額 <sup>6</sup> (億円)	291	249	△42	99

- 注) 1 国内原油および石油製品販売量の換算係数として1kl=6.29バレルを使用  
 2 国内天然ガス販売量の換算係数として1m<sup>3</sup>=37.32cfを使用  
 3 国内LPG販売量の換算係数として1トン=10.5バレルを使用  
 4 開発投資額にはイクシス下流事業を含む  
 5 損益計算書の生産物回収勘定引当金繰入額+探鉱事業引当金繰入額  
 6 非支配株主による増資見合い分等

8

# 生産量\*(2015年4月-9月)

INPEX

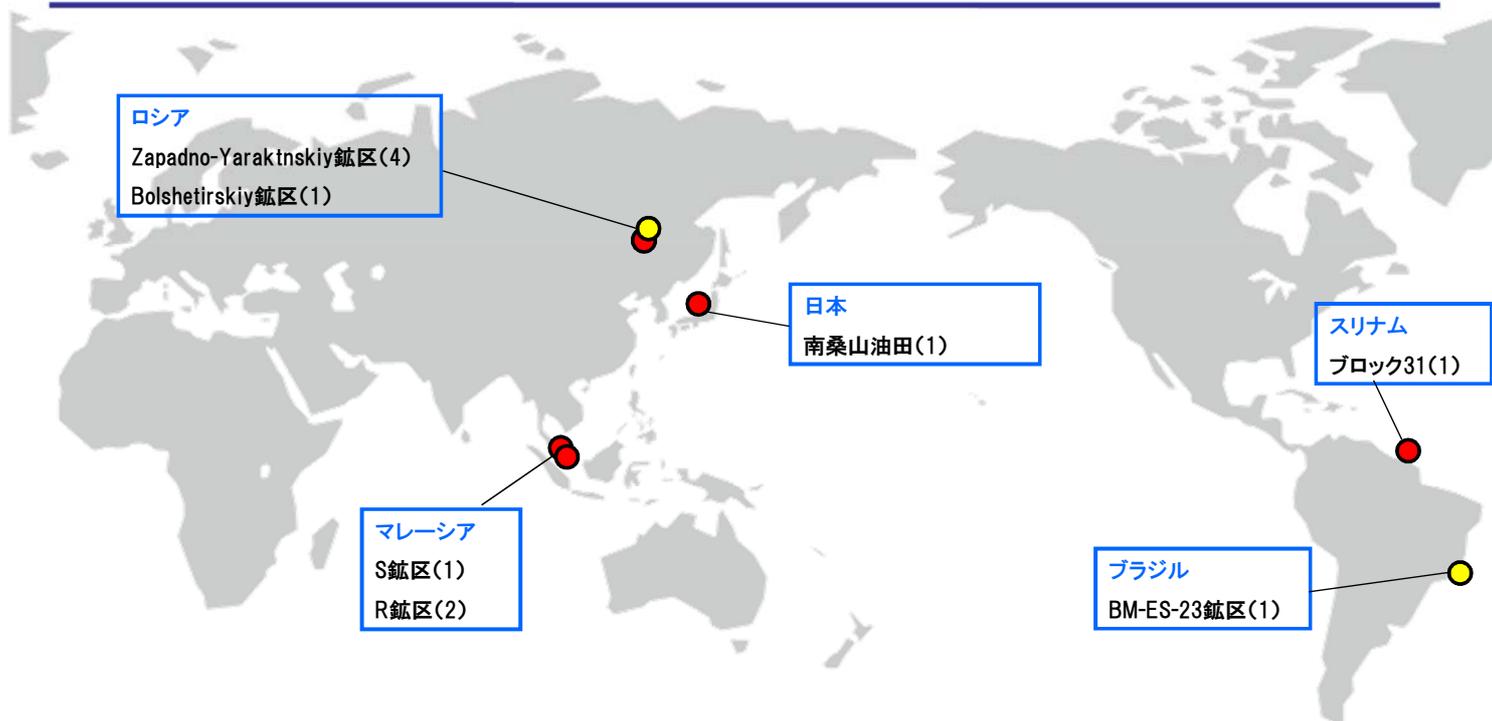


9

\* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

## プロジェクト参考データ

### 探鉱実績(2015年9月末時点)\*

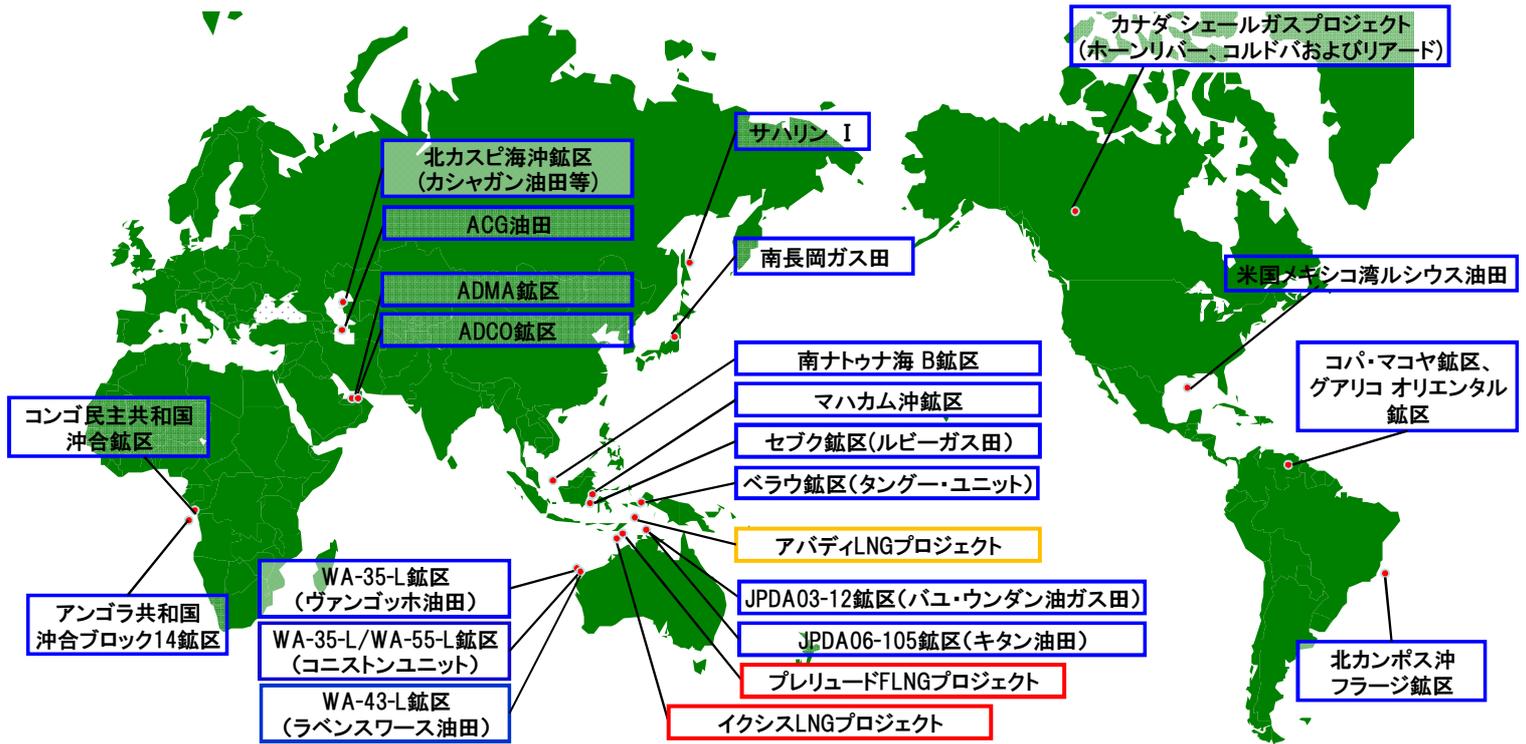


\* ( )内の数字は掘削坑井数

- 試掘井
- 探掘井

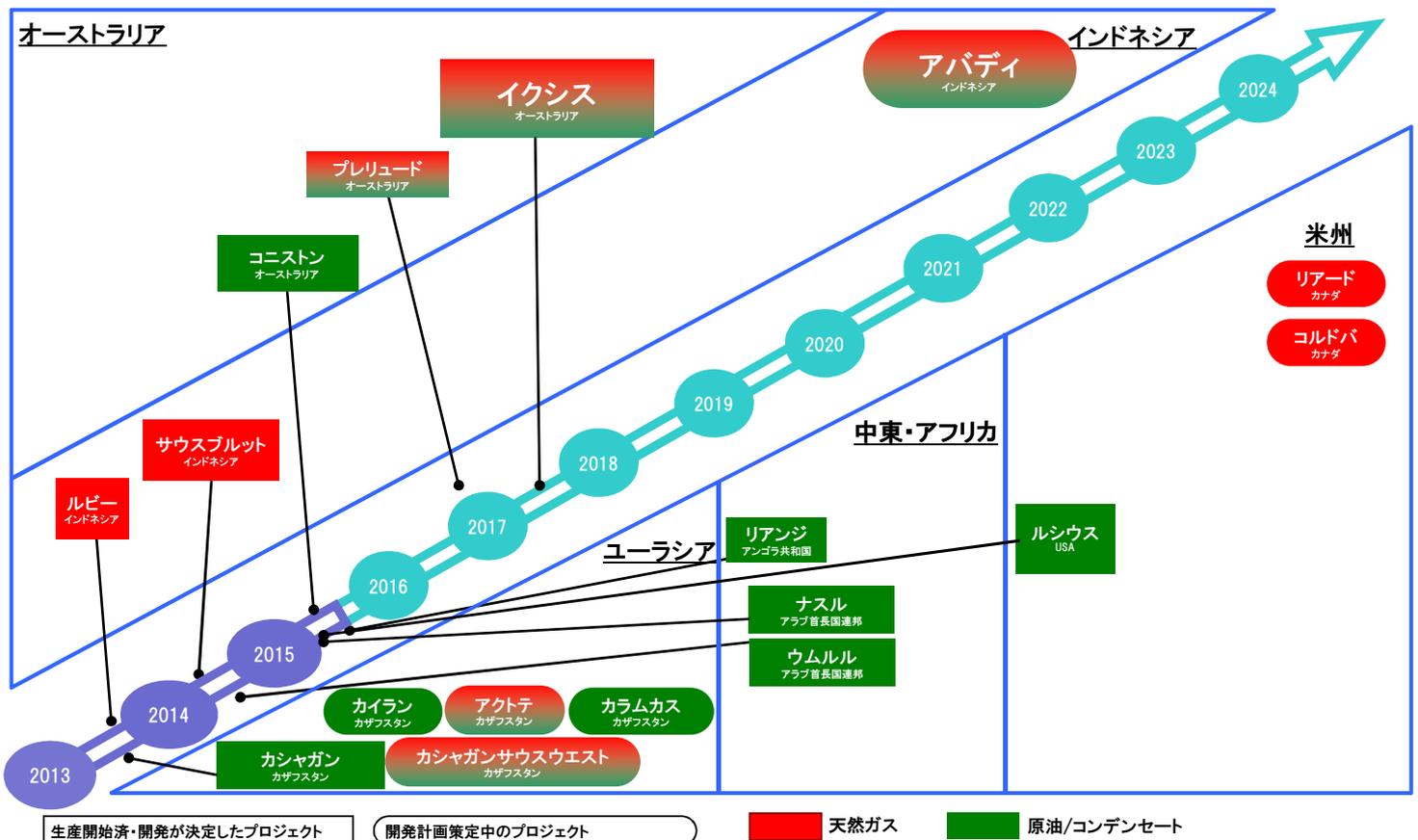
	探鉱投資額 (億円)	試掘井 (坑)	探掘井 (坑)	2D震探 (km)	3D震探 (km <sup>2</sup> )
2016年3月期(計画)	440	11	12	0	992
うち作業中・作業済	279	7	5	0	0

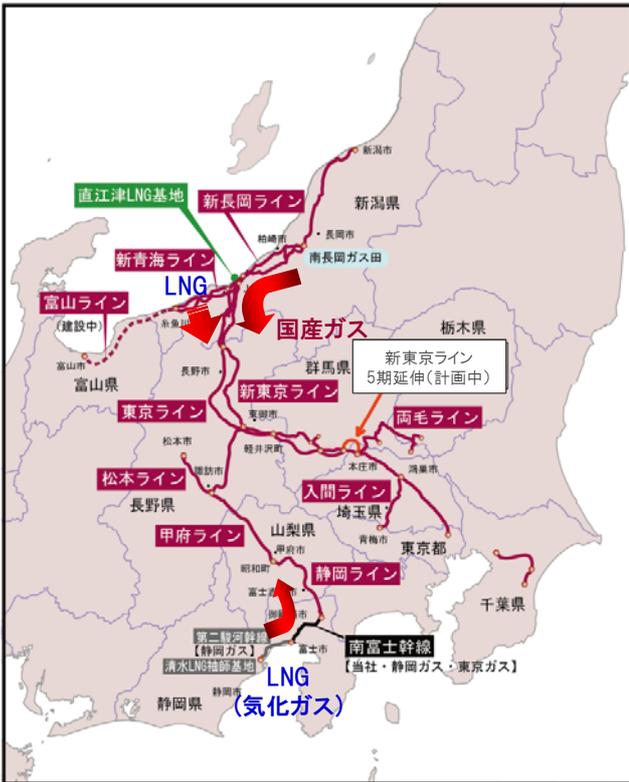
# 主な生産・開発プロジェクト



生産中 開発中 開発準備作業中

# 生産開始スケジュール





## - 生産量\*

- ・天然ガス: 約2.7百万m<sup>3</sup>/日 (101百万立方フィート/日)\*\*
- ・原油・コンデンサート: 約3千バレル/日

## - 天然ガス販売状況

- ・2015年3月期販売量: 17.9億m<sup>3</sup>\*\*
- ・2016年3月期販売量見通し: 18.7億m<sup>3</sup>\*\*
- ・2020年代前半に25億m<sup>3</sup>、長期的に年間30億m<sup>3</sup>の供給見通し

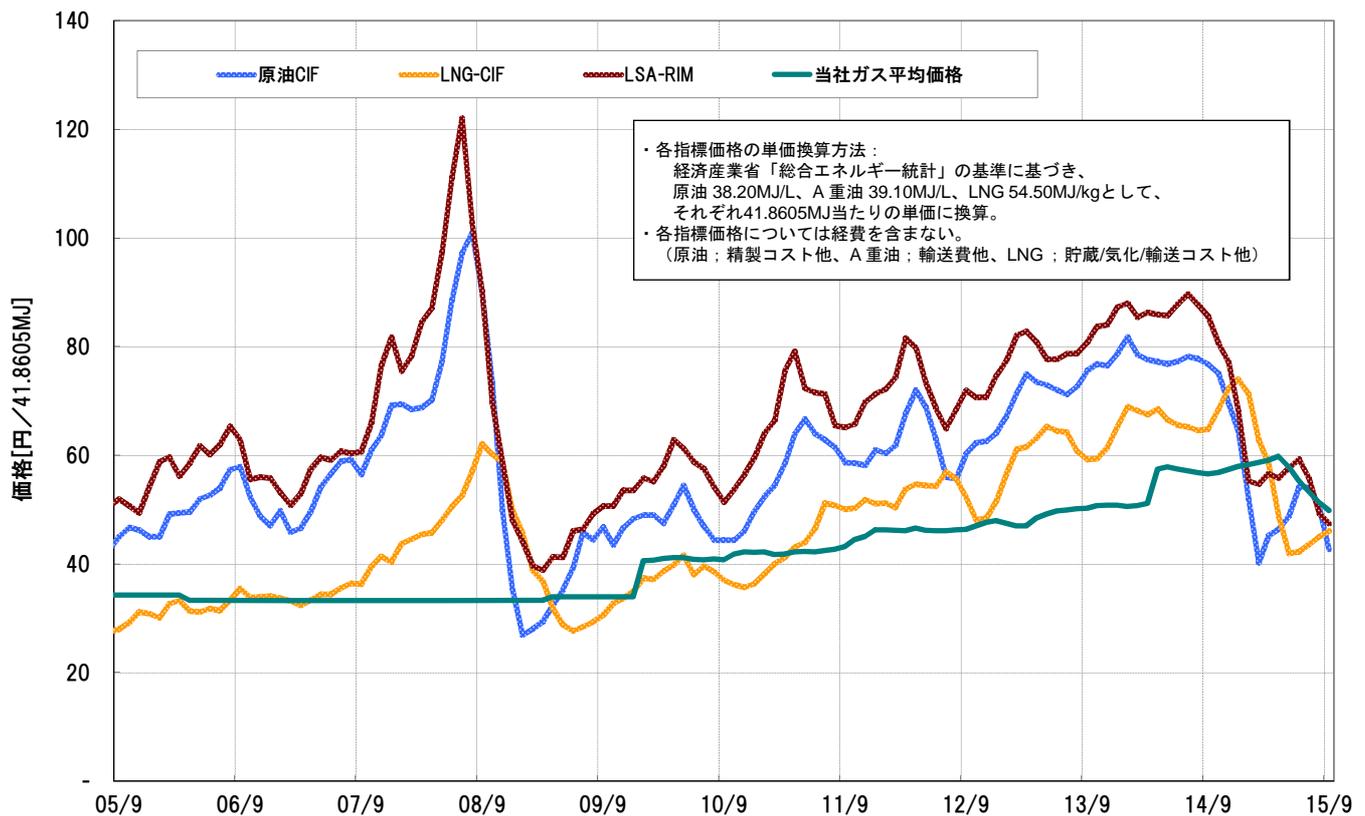
## - ガスサプライチェーンの構築

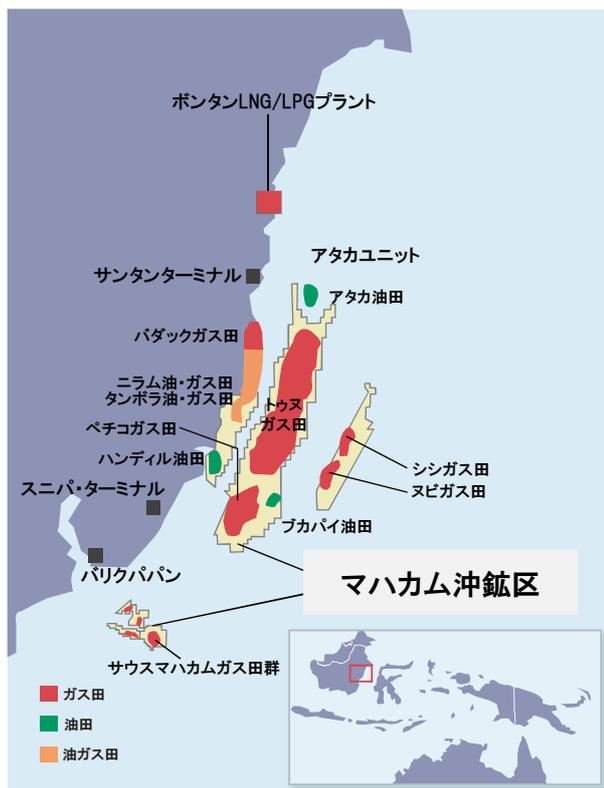
- ・2013年12月、直江津LNG基地の商業運転開始
- ・2016年供用開始に向け、富山ラインを建設中

\* 国内油田・ガス田の合計(2015年4月~9月平均日産量)  
\*\* 1m<sup>3</sup>当たり41,8605MJ換算

# 国内天然ガス価格

単位あたりの価格の比較





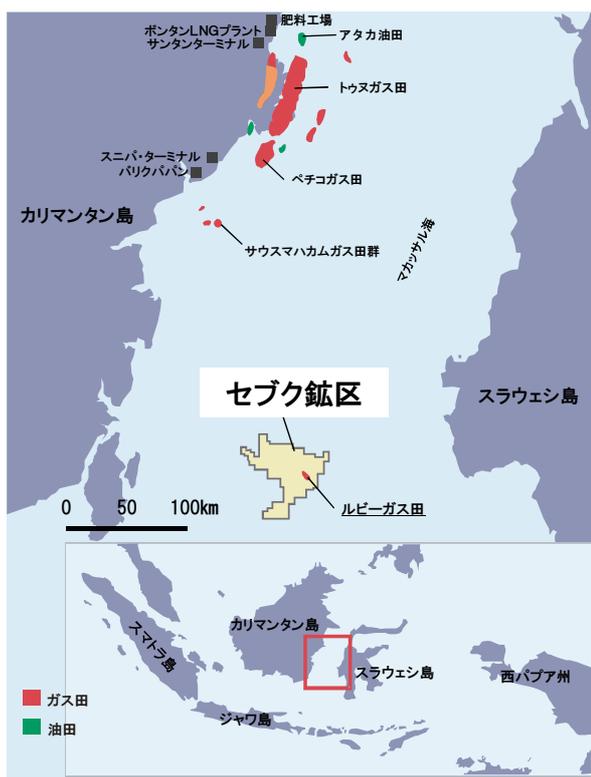
- 当社権益比率: 50%  
(オペレーター: TOTAL)
- 生産量\*
  - ・原油・コンデンセート: 日量約7.2万バレル
  - ・LPG: 日量約1.2千バレル
  - ・天然ガス\*\*: 日量約1,692百万立方フィート
- PS契約: 2017年まで
- ボンタンLNG基地へのガス安定供給を目的として主力ガス田であるトゥヌ/ペチコ/シシ/ヌビ/サウスマハカムガス田を中心とした段階的開発作業を継続
- 2012年4月、西ジャワ洋上LNG受入基地へLNG供給開始
- 2012年10月末、サウスマハカムガス田より生産開始
- PS契約の更新に向けTOTALとともにインドネシア当局及びPertaminaと交渉継続中

\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

\*\*井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

## セブク鉱区(ルビーガス田)

### インペックス南マカッサル石油



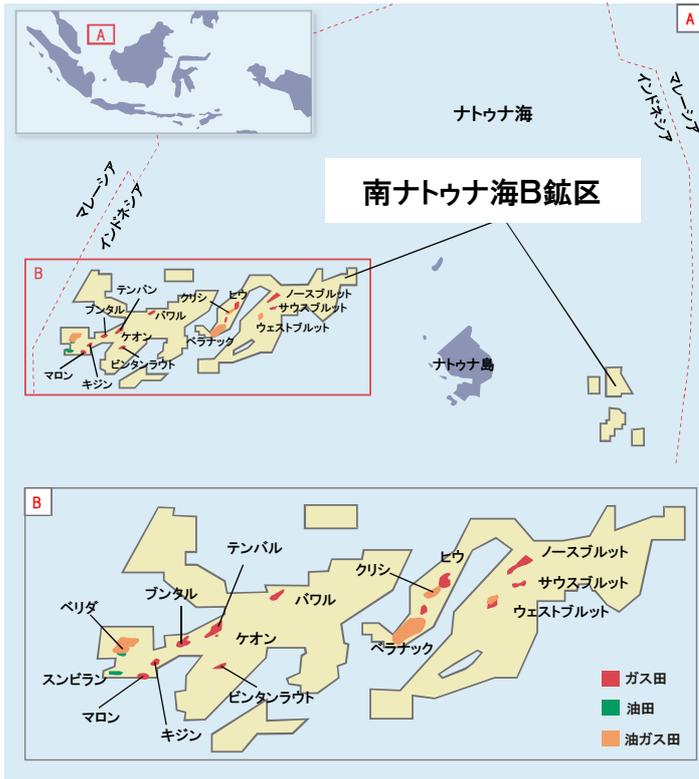
- 当社権益比率: 15%  
(オペレーター: PEARLOIL (Mubadala))
- 生産量\*
  - 天然ガス\*\*: 日量約66百万立方フィート
- PS契約: 2027年まで
- 2010年8月、オペレーターであるPearl Energyと締結した権益譲渡契約のインドネシア政府承認を取得(当社15%権益取得)
- 2011年6月、開発移行決定
- 海上生産施設よりマハカム沖鉱区既存陸上施設へ海底パイプラインにより繋ぎ込み
- 生産ガスの大部分をインドネシア国内肥料工場向けに供給
- 2013年10月、生産開始

\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

\*\*井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

# 南ナトゥナ海B鉱区 ナトゥナ石油

**INPEX**



- 当社権益比率: 35.0%  
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量\*:
  - ・原油・コンデンセート: 日量約2.3万バレル
  - ・LPG: 日量約1.0万バレル
  - ・天然ガス\*\*: 日量約263百万立方フィート
- PS契約: 2028年まで
- SembCorp社(シンガポール)と2001年より27年間、Petronas(マレーシア)と2002年より20年間の天然ガス販売契約締結
- 2012年7月、バウルガス田の生産開始
- 2014年4月、サウスブルットガス田の生産開始

\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

\*\*井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

18

# ベラウ鉱区(タンゲーLNGプロジェクト) MI Berau B.V./MIベラウジャパン

**INPEX**



- MI Berau/MIベラウジャパン\*:
  - 三菱商事とのJV(当社44%、三菱商事56%)
  - \*MIベラウジャパンはケージ-ベラウ石油開発に約16.5%出資
- 権益比率:
  - ・MI Berau: タンゲー・ユニット 16.3%
  - ・ケージ-ベラウ石油開発: タンゲー・ユニット 8.56%
  - (オペレーター: BP)
- 生産量\*
  - ・コンデンセート: 日量約6千バレル
  - ・天然ガス\*\*: 日量約1,054百万立方フィート
- PS契約: 2035年まで
- LNG生産量: 年間760万トン
- 2009年7月、LNG販売開始

\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

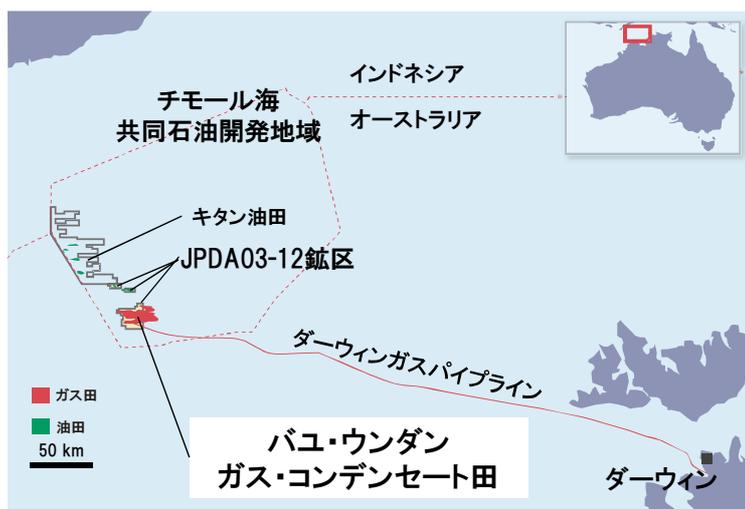
\*\*井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

19

# バユ・ウンダン ガス・コンデンセート田(JPDA03-12鉱区)

サウル石油

INPEX



- 当社権益比率: 11.378120%  
(オペレーター: ConocoPhillips)
- 生産量\*
  - ・コンデンセート: 日量約2.0万バレル
  - ・LPG: 日量約1.2万バレル
  - ・天然ガス\*\*: 日量約597百万立方フィート
- PS契約: 2022年まで
- 2004年2月、コンデンセート/LPG販売開始
- 2005年8月、東京電力/東京ガスとLNG販売契約締結(2006年から17年間、年間300万トン)
- 2006年2月、LNG販売開始

\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

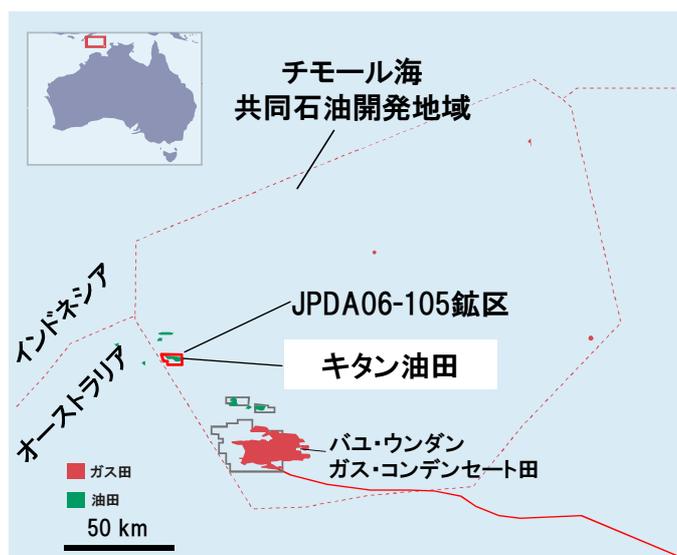
\*\*井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

20

# キタン油田(JPDA06-105鉱区)

インペックスチモールシー

INPEX



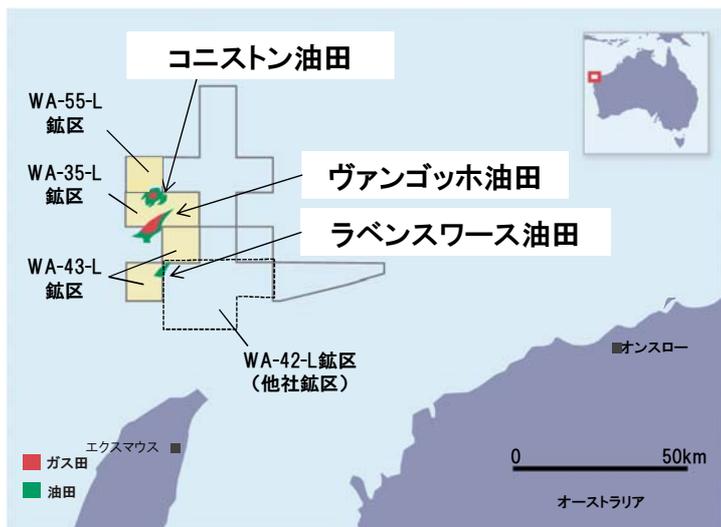
- 当社権益比率: 35%  
(オペレーター: Eni)
- 生産量\*: 原油: 日量約1千バレル
- PS契約: 2035年4月まで(キタン油田)
- 2008年5月、キタン油田商業発見宣言
- 2010年4月、キタン油田の最終開発計画に対し共同管轄当局の承認取得
- 2011年10月、生産開始

\*全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

21

# ヴァンゴッホ油田/コニストン油田及びラベンスワース油田

**INPEX**



## ヴァンゴッホ油田(WA-35-L)/コニストン油田 (WA-35-LおよびWA-55-L 鉱区)

- 当社権益比率: 47.499%  
(オペレーター: Quadrant Energy)
- 利権契約(2008年10月生産ライセンス取得)
- 生産量\*: 原油: 日量約2.1万バレル
- 2010年2月、ヴァンゴッホ油田にて原油生産開始
- 2015年5月、コニストン油田にて原油生産開始

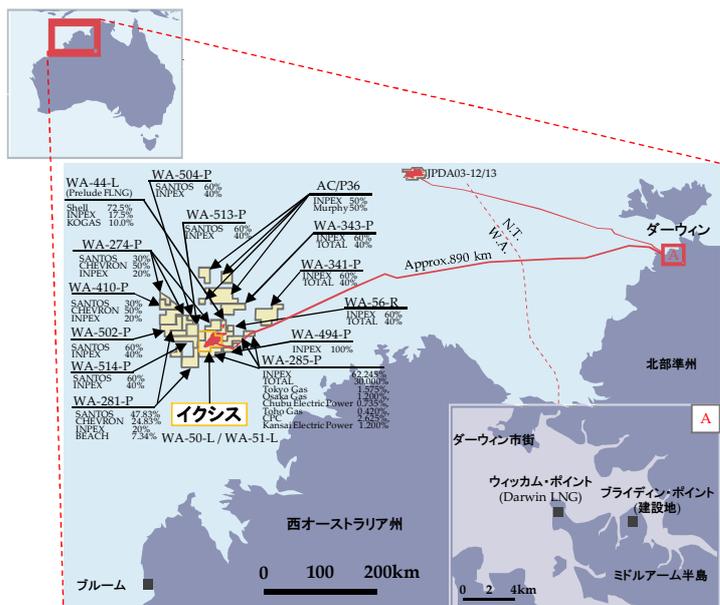
## ラベンスワース油田(WA-43-L 鉱区)

- 当社権益比率: 28.5%  
(オペレーター: BHPBP)
- 生産量\*: 原油: 日量約1.4万バレル
- 利権契約(2009年11月生産ライセンス取得)
- 隣接するWA-42-L 鉱区の生産施設への繋ぎ込みによる開発
- 2010年8月、生産開始

\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

# イクシスLNGプロジェクト(1/5)

**INPEX**



- 2012年1月13日、最終投資決定(FID)を発表
- 2017年第3四半期(7月~9月)に生産開始予定
- 生産量: LNG 年間約890万トン(日本のLNG年間輸入量の約1割)、LPG 年間約160万トン、コンデンセート 日量約10万バレル(ピーク時)
- 埋蔵量: プロジェクトライフ40年。年間約890万トンのLNGを約20年の長期にわたり生産可能(以降緩やかに減少)。豊富なLPG、コンデンセート有。確認埋蔵量約9.7億BOE(当社権益比率62.245%ベース)
- 権益比率: 当社62.245%、TOTAL30.000%、東京ガス1.575%、大阪ガス1.200%、中部電力0.735%、東邦ガス0.420%、CPC社 2.625%、関西電力 1.200%

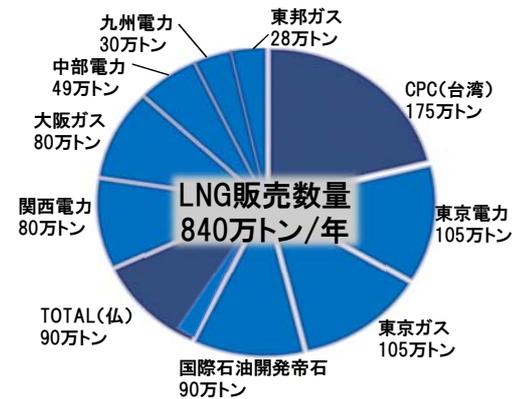
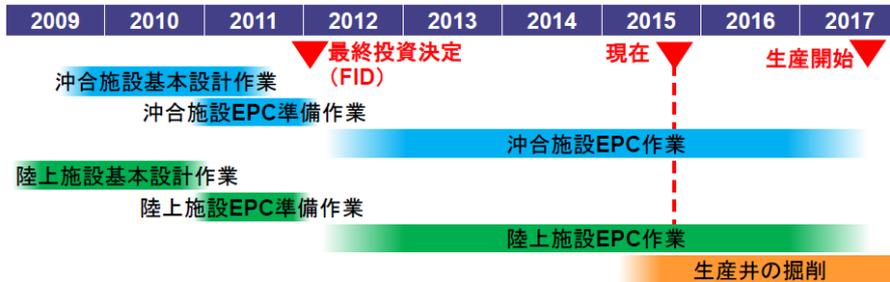
# イクシスLNGプロジェクト(2/5)

- マーケティング: 当初計画のLNG年産840万トンにつき売買契約締結済
- 主要許認可: 環境、ガス輸送パイプラインのライセンス、生産ライセンス等全て取得済
- 開発投資額: 10%程度増加(プロジェクト100%)
- ファイナンス: 2012年12月、総額200億米ドルのプロジェクトファイナンスに係る融資関連契約に調印
- 開発作業: 主要EPC契約締結済

**上流事業** 沖合生産・処理施設(CPF): Samsung Heavy Industries(韓)  
 沖合生産貯油・出荷施設(FPSO): Daewoo Shipbuilding & Marine Engineering(韓)  
 海底生産システム(SPS): GE Oil & Gas(米)  
 フローライン、フレキシブルライザーなどの接続作業等: McDermott(米)

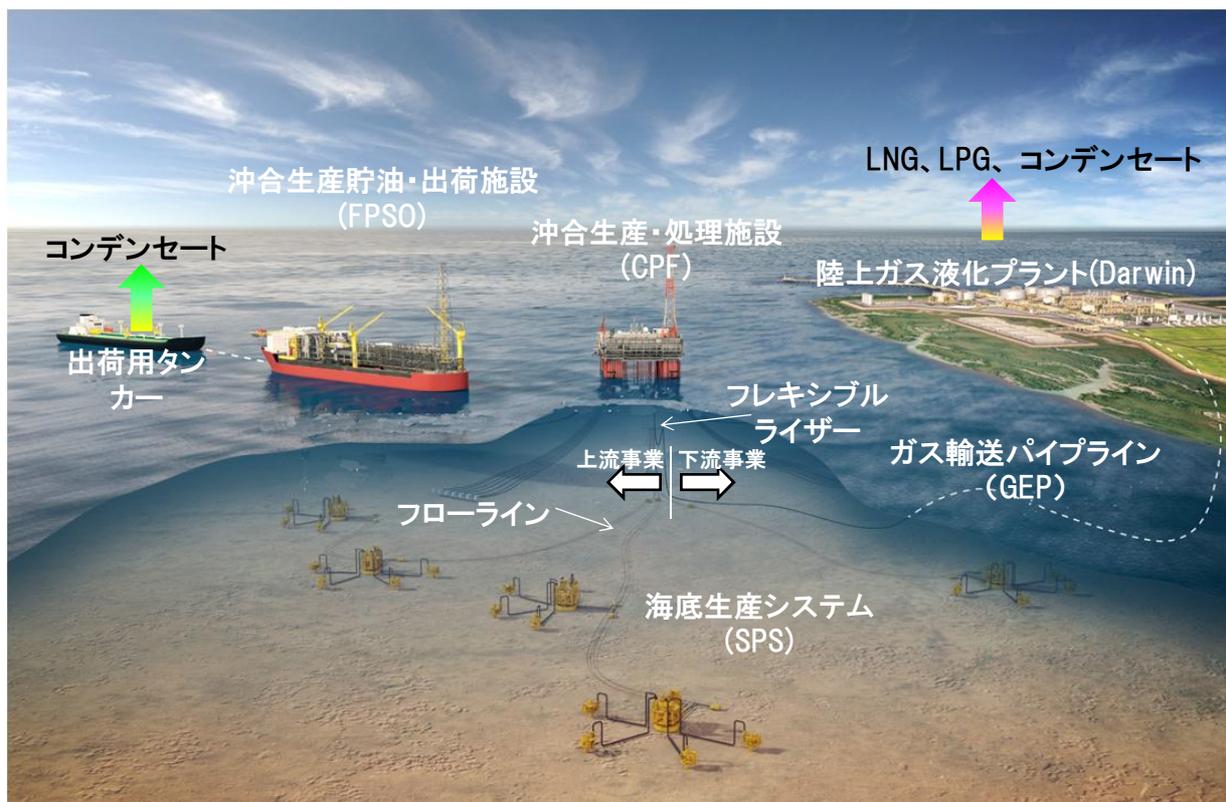
**下流事業** 陸上LNGプラント: 日揮、千代田化工、KBR社(米)の企業連合  
 ガス輸送パイプライン(GEP): Saipem(伊)・三井物産・住友商事・メタルワン  
 ダーウィン湾内浚渫作業: Van Oord(蘭)  
 計装・制御システム: 横河電機(上流施設も含む)

## スケジュール



# イクシスLNGプロジェクト(3/5)

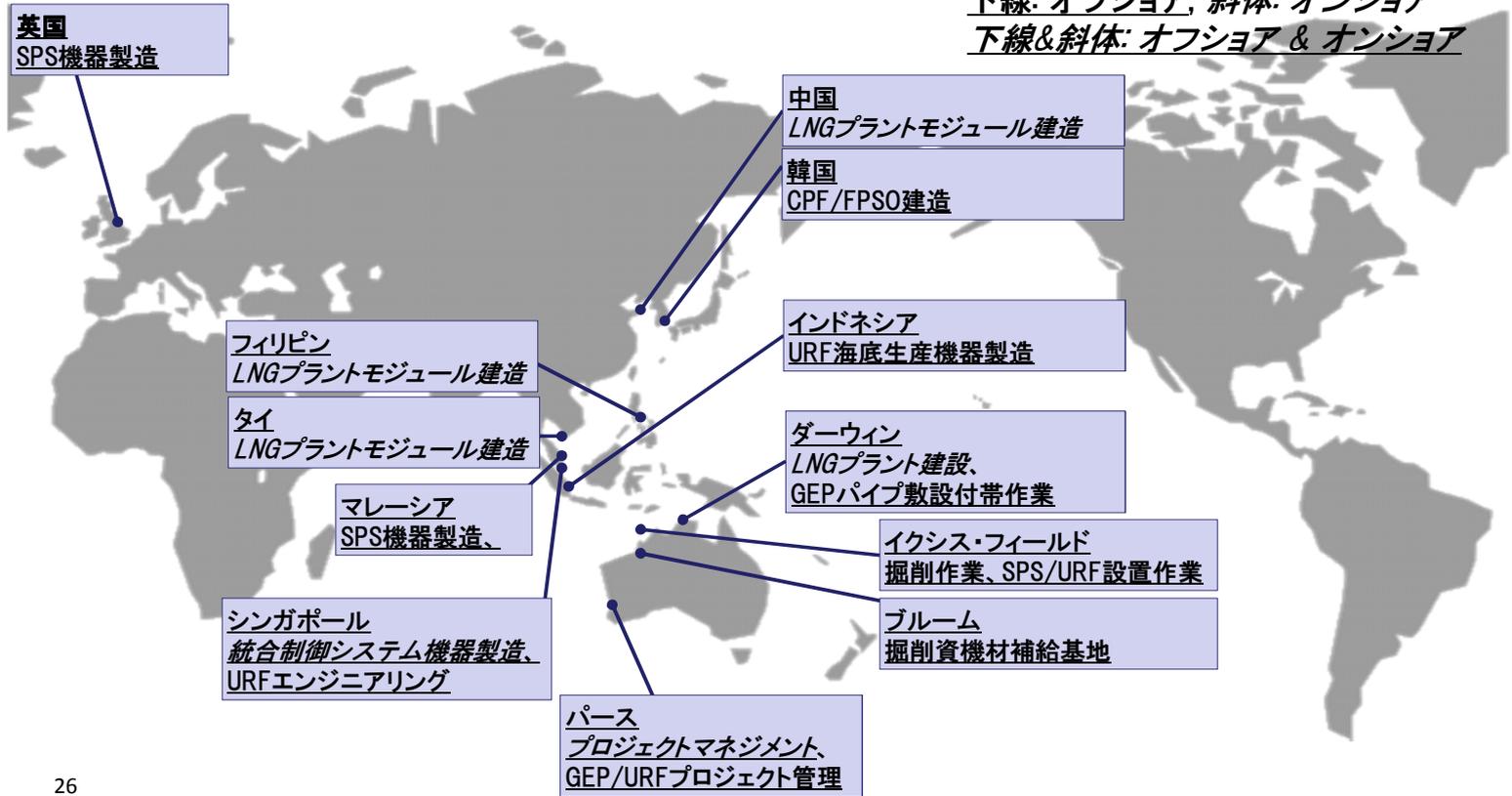
## イクシスLNGプロジェクトの開発コンセプト



# イクシスLNGプロジェクト(4/5)

## 現在、作業が進んでいる主なプロジェクト拠点

下線: オフショア, 斜体: オンショア  
下線&斜体: オフショア & オンショア



# イクシスLNGプロジェクト(5/5)

LNGプラントの建設状況  
(2015年8月、ダーウィンにて)



生産マニフォールド設置作業  
(2014年8月、イクシスフィールドにて)



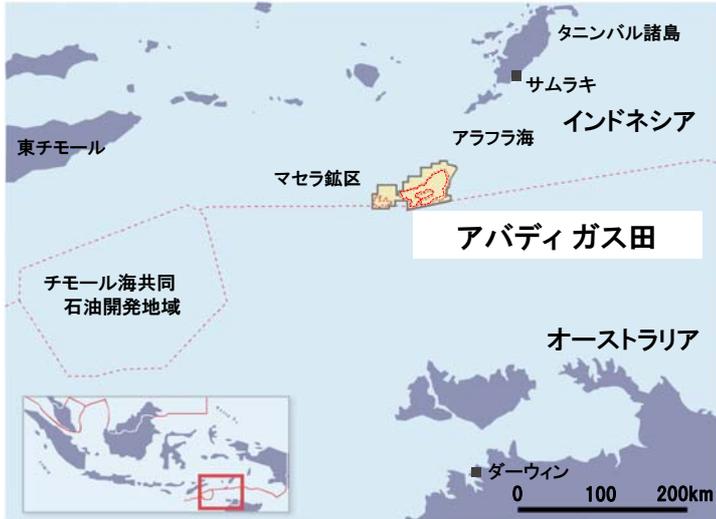
FPSOのモジュール搭載作業  
(2015年7月、韓国にて)



CPFの進水(2015年9月、韓国にて)



# アバディLNGプロジェクト

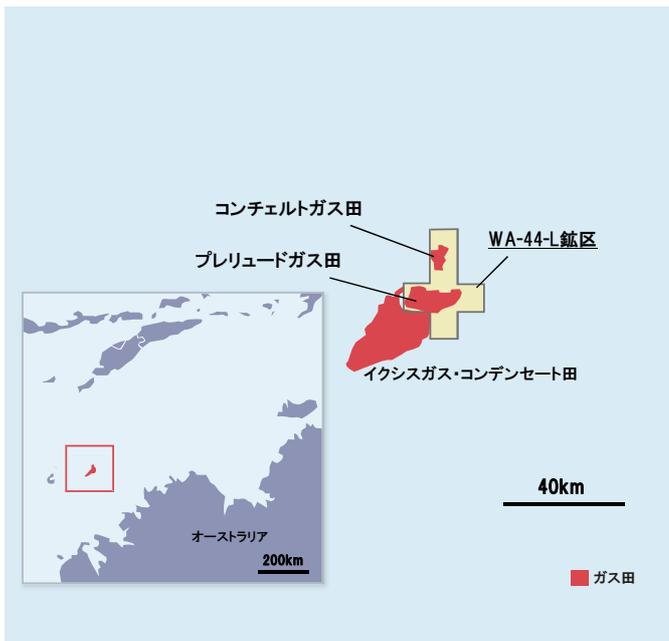


- 2015年9月、インドネシア政府当局へ改定開発計画を提出
  - 年産750万トン規模のフローティングLNG（浮体構造に天然ガス液化・貯蔵・出荷設備を搭載した施設）を採用
  - 現在、インドネシア政府と改定開発計画について協議中
  - 改定開発計画に基づくFEED作業開始に向けた準備を進める
- Shellとの戦略的パートナーリング
  - Shellによる技術・人的支援の有効活用
- 生産分与契約に基づき10%の参加権益をインドネシア政府の指定するインドネシア企業に譲渡する予定
- PS契約: 2028年まで

- 権益比率
  - 当社(オペレーター)65%、Shell35%
- アバディガス田改定開発計画
  - 開発方式: Floating LNG
  - 生産量: LNG年間750万トン  
コンデンセート日量約24,000バレル
- 開発準備中

# プレリウドFLNGプロジェクト

INPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd

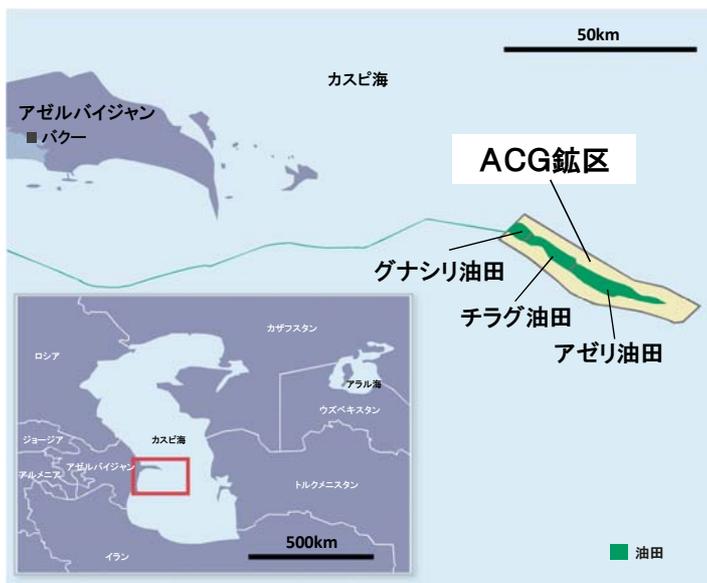


- 権益比率: 17.5%(オペレーター: Shell)
- 埋蔵量: 天然ガス約3兆cf  
(プレリウドガス田およびコンチェルトガス田)
- 生産量:
  - ・LNG 年間360万トン
  - ・LPG 年間約40万トン
  - ・コンデンセート 日量約3.6万バレル(ピーク時)
- 2011年5月に最終投資決定
- 2007年初めのプレリウドガス田発見からおよそ10年での生産開始を目標
- 2014年5月、当社権益相当分年間約63万トンのLNGの売買について(2017年から8年間)、東京電力(年間約56万トン)、静岡ガス(年間約7万トン)それぞれと基本合意



FLNG船イメージ

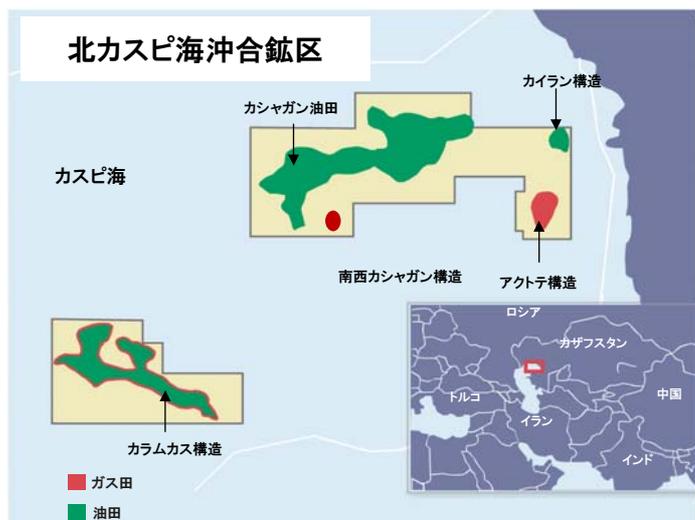
# ACG油田 インペックス南西カスピ海石油



- 当社権益比率: 10.9644%(オペレーター:BP)
- 生産量\*: 日量約65.0万バレル
- PS契約: 2024年まで
- チラグ油田1997年生産開始
- フェーズ1: アゼリ油田中央部2005年2月に生産開始
- フェーズ2: アゼリ油田西部2005年12月に生産開始、アゼリ油田東部2006年10月に生産開始
- フェーズ3: グナシリ油田深海部2008年4月に生産開始
- 2014年1月、チラグ油田西部(チラグ・オイル・プロジェクト)にて生産開始

\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

# カシャガン油田ほか インペックス北カスピ海石油



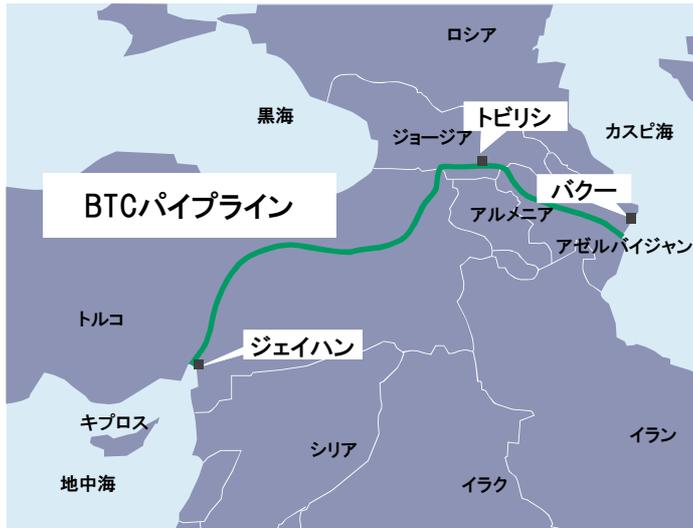
- 当社権益比率: 7.56%(オペレーター: NCOC(North Caspian Operating Company))
- PS契約: カシャガン油田 - 2021年末まで\*
- カラムカス/アクトテ/カイヤン/南西カシャガンの4構造の評価作業を実施中  
(2013年9月に生産開始し、ガスリークにより同年10月より一時的に生産停止中)

\*現行のPSA条件にて10年×2回の延長(2041年まで)が可能

# BTC(BakuTbilisiCeyhan)パイプラインプロジェクト

## INPEX BTC Pipeline, Ltd.

**INPEX**



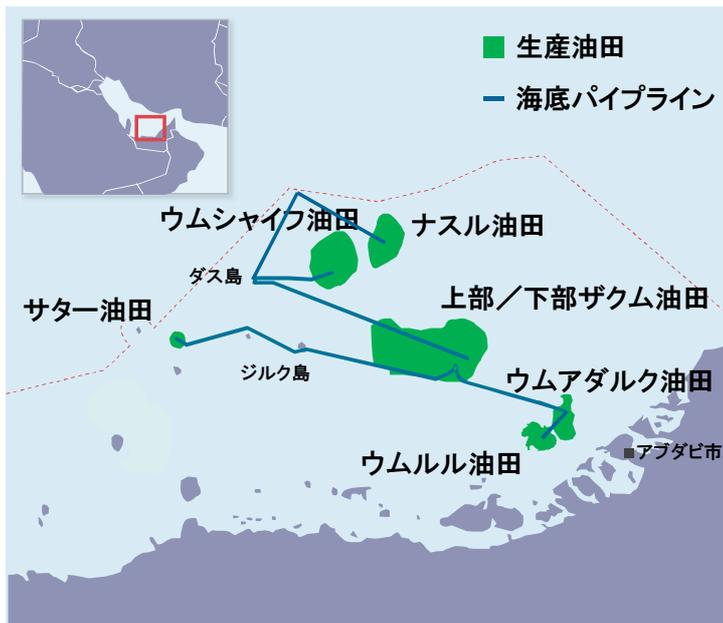
- 当社権益比率:2.5%(オペレーター:BP)
- 2002年10月、当社、参加権益2.5%取得
- 2006年6月、ジェイハンターミナルから原油出荷開始
- 2009年3月、輸送能力日量120万バレルまでの拡張作業を完了
- 2010年9月13日、累計10億バレル出荷を達成
- 2014年8月11日、累計20億バレル出荷を達成

32

# ADMA鉦区

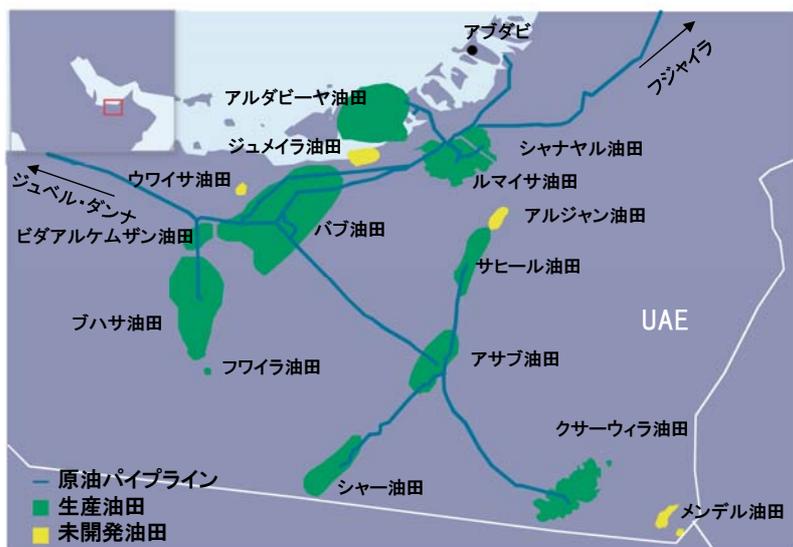
## ジャパン石油開発(JODCO)

**INPEX**



- ウムシャイフ/下部ザクム/ウムルル/ナスル油田
    - ・ 当社権益比率: 12.0%(オペレーター: ADMA-OPCO\*)
  - 上部ザクム/ウムアダルク/サター油田
    - ・ 当社権益比率: 上部ザクム/ウムアダルク 12.0% サター 40.0%(オペレーター:ZADCO\*)
- \*権益保有者が株主である操業会社。JODCOから両社へそれぞれ12%を出資。
- 利権契約: 2018年まで(但し、上部ザクム油田は2041年まで)
  - 生産量維持・拡大のため開発作業を継続中
    - ・ 2014年10月、ウムルル油田の生産開始
    - ・ 2015年1月、ナスル油田の生産開始
    - ・ 人工島を利用した再開発計画に基づく作業実施中(上部ザクム)

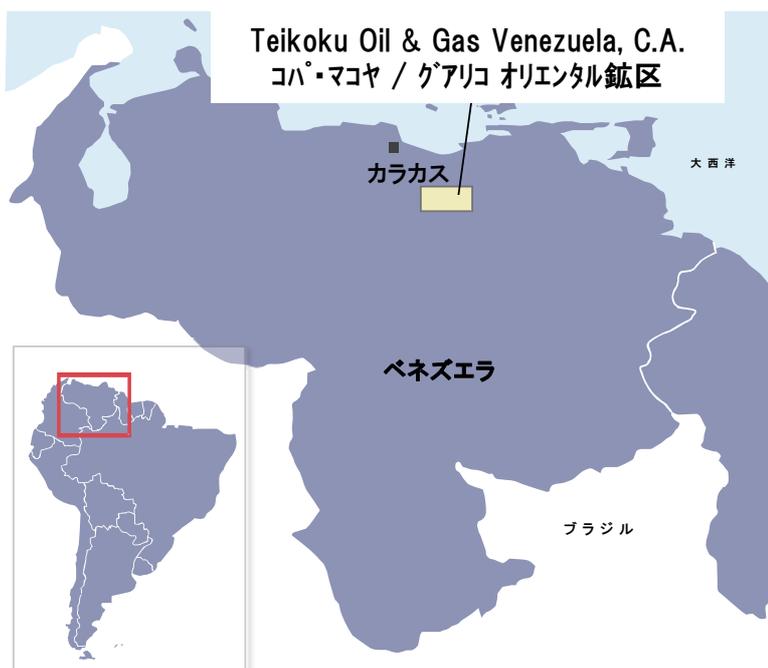
33



- 当社権益比率:5%  
(オペレーター:ADCO\*)
  - 生産量
    - ・ 原油: 日量約160万バレル
  - 利権契約:2054年まで
  - 2015年4月、アブダビ首長国政府及びADNOCと利権契約を締結し、権益取得
  - 2017年までに生産量を日量約180万バレルに引き上げるべく開発作業を実施中
- \*権益保有者が株主である操業会社。JODCO Onshore Ltd. から5%を出資。

## ベネズエラ プロジェクト

Teikoku Oil & Gas Venezuela, C.A.ほか



- Teikoku Oil & Gas Venezuela, C.A.  
コパ・マコヤ / グアリコ オリエンタル鉦区
- コパ・マコヤ (ガス事業)/  
グアリコ オリエンタル鉦区(原油事業)
  - ジョイントベンチャー出資比率
    - ・ ガス事業:70%、原油事業:30%
  - ジョイントベンチャー契約
    - ・ 2006-2026年
  - 生産量\*
    - ・ 原油: 日量約1千バレル
    - ・ 天然ガス\*\*: 日量約40百万立方フィート

\* 全鉦区ベース、2015年9月平均日産量

\*\*井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

# ブラジル プロジェクト フラージ鉱区ほか

**INPEX**



## フラージ鉱区(Frade Japão Petrleo Limitada (FJPL))

- 権益比率: FJPL\*18.3% (オペレーター: Chevron)

\*持分法適用関連会社(当社はFJPLの37.5%の株式を保有)

- 生産量\*\*:
  - 原油: 日量約2.3万バレル
  - 天然ガス\*\*\*: 日量約2百万立方フィート
- コンセッション契約: 2025年まで

## BM-ES-23鉱区

- 当社権益比率: 15%
- 探鉱(評価)作業中

\*\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

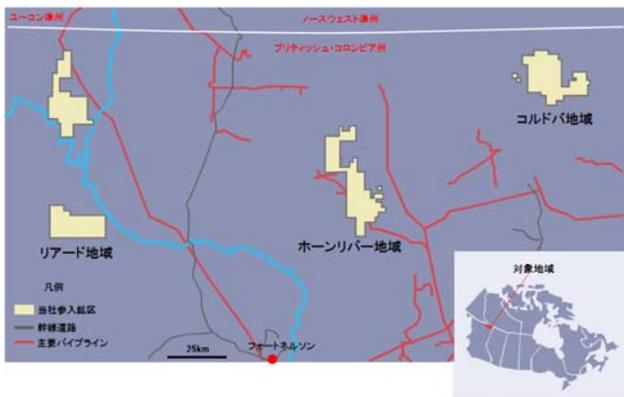
\*\*\* 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

36

# カナダ シェールガスプロジェクト

INPEX Gas British Columbia Ltd.

**INPEX**



- 権益比率:40%\* (オペレーター:Nexen)
  - INPEX Gas British Columbia Ltd. (出資比率:当社45.09%、JOGMEC44.89%、日揮(株)のカナダ法人子会社 10.02%)の権益比率。
- コンセッション契約
  - ホーンリバー: 366km<sup>2</sup>
  - コルドバ: 344km<sup>2</sup>
  - リアード: 517km<sup>2</sup>
- 今後、本格的な開発作業を進め、ホーンリバーを中心として、日量12.5億立方フィート規模の生産を目標
- ホーンリバー地域:2010年生産開始

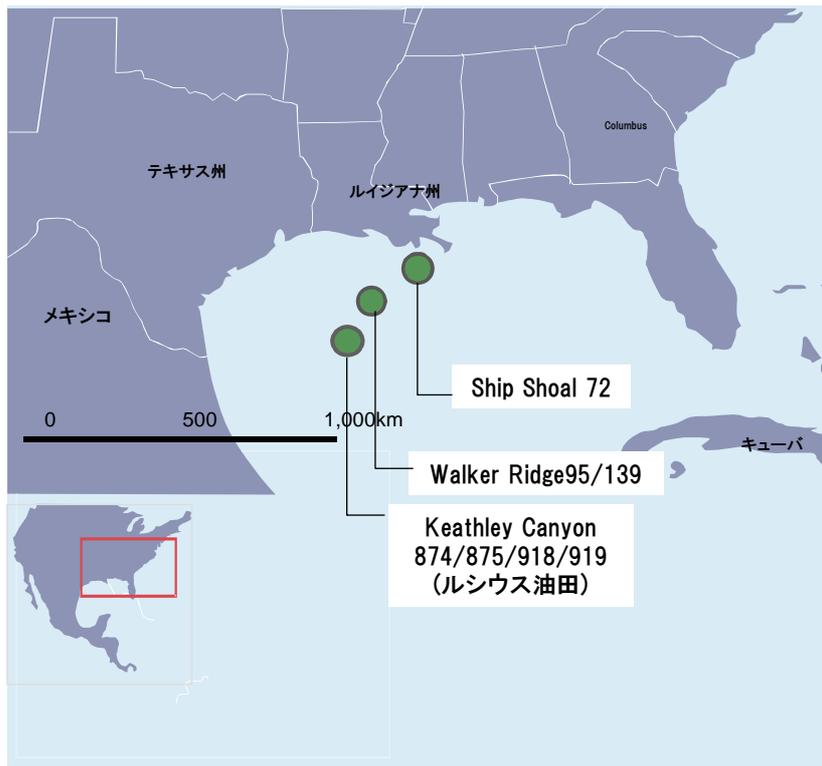


ホーンリバーにおけるフラクチャリング作業現場

37

# 米国メキシコ湾 プロジェクト

Teikoku Oil (North America) Co., Ltd. / INPEX Gulf of Mexico Co., Ltd. **INPEX**



## 浅海域鉱区

(Teikoku Oil (North America) Co., Ltd.)

- 当社権益比率
  - ・ Ship Shoal 72 : 25%
- コンセッション契約
- 生産量\*
  - ・ 天然ガス\*\* : 日量約1百万立方フィート

## 大水深プロジェクト

(INPEX Gulf of Mexico Co., Ltd.)

- 当社権益比率:ウォーカー・リッジ95/139鉱区 12.29%
- コンセッション契約

## ルシウス油田

(Teikoku Oil (North America) Co., Ltd.)

- コンセッション契約
- 当社権益比率:7.75309% (オペレーター: Anadarko)
- 2015年1月 原油及び天然ガスの生産開始
- 生産量\*\*\*
  - ・ 原油: 日量約7.8万バレル
  - ・ 天然ガス\*\* : 日量約82百万立方フィート

\* Ship Shoal 72 の2015年9月平均日産量 (パイプライン管理作業で油井は停止中)

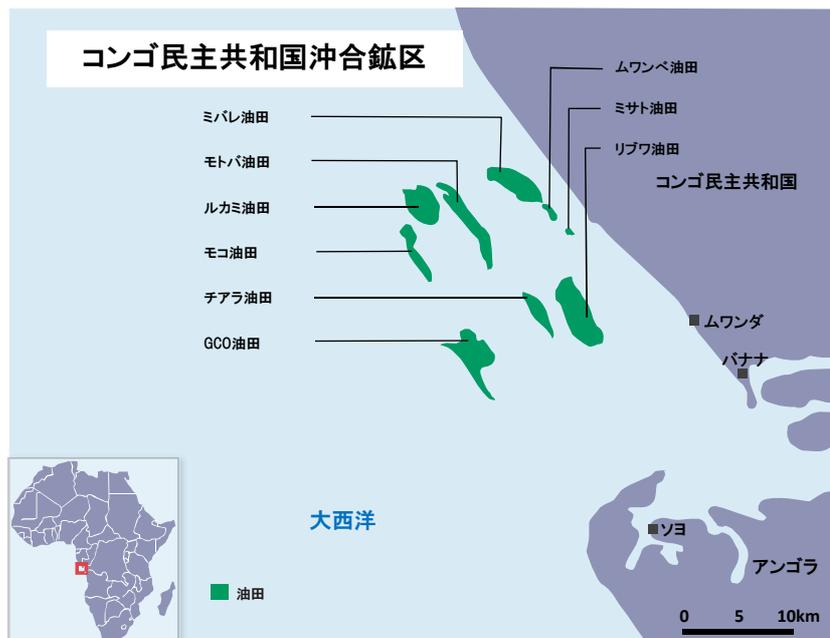
\*\* 井戸元の生産量ではなく買主への販売に対応した数量

\*\*\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

# コンゴ民主共和国沖合鉱区

帝石コンゴ石油

**INPEX**

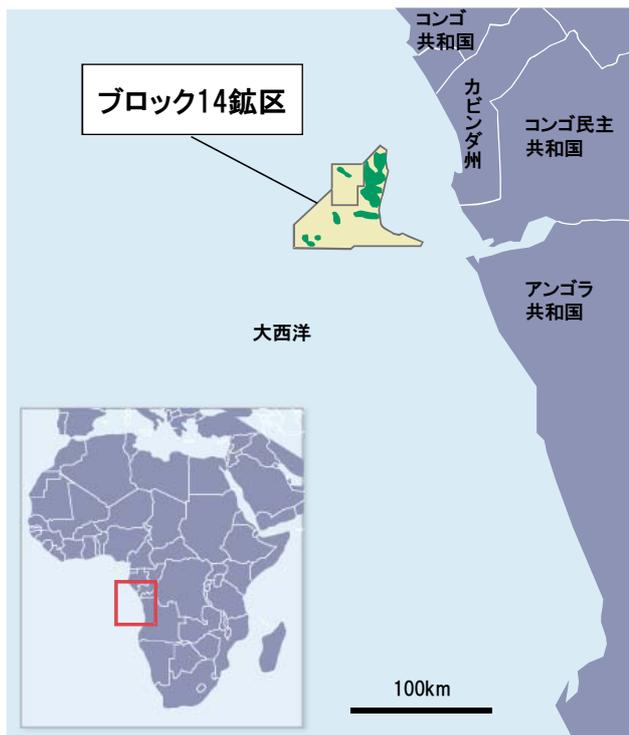


- 当社権益比率:32.28% (オペレーター:ペレンコ)
- コンセッション契約(1969-2023年)
- 生産開始:1975年
- 生産量\*:日量約1.2万バレル

\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

# アンゴラ共和国沖合ブロック14鉱区 INPEX Angola Block14 Ltd.

**INPEX**

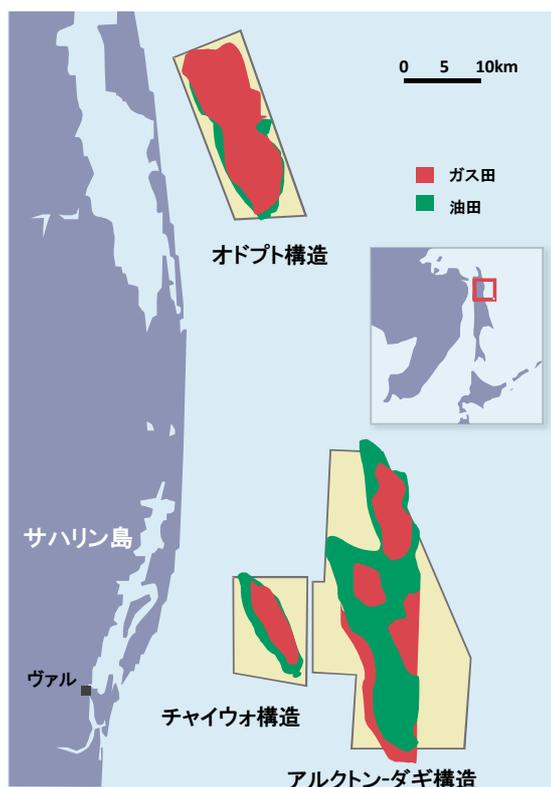


- 当社権益比率:9.99%(オペレーター: Chevron)
- 生産量\*: 日量約11.3万バレル
- PS契約: 2035年まで

\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

## サハリン I サハリン石油ガス開発

**INPEX**



- サハリン石油ガス開発(SODECO):当社保有株式約6.08%
- SODECOのサハリン I における権益比率: 30.0%
- 生産量\*
  - ・原油・コンデンセート 日量約17.9万バレル
  - ・天然ガス 日量約10.1億立方フィート
- オペレーター: ExxonMobil
- PS契約: 2001年12月、20年間の開発期間に移行
- 2005年10月、チャイウオ構造より生産開始、2006年10月原油輸出開始
- 2010年9月、オドプト構造より生産開始
- 2014年6月、アルクトン・ダギ構造に、世界最大級のプラットフォーム”Berkut”を設置
- 2015年1月、アルクトン・ダギ構造より生産開始
- 天然ガスをロシア国内に供給中

\* 全鉱区ベース、2015年9月平均日産量

# 主要会社一覧及び石油契約①\*

会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	ステージ
<b>日本</b>					
・国際石油開発帝石	南長岡ガス田ほか**	日本	コンセッション	-	生産中
<b>アジア/オセアニア</b>					
・国際石油開発帝石	マハカム沖鉱区	インドネシア	PS	-	生産中
・インペックス南マカッサル石油	セブク鉱区(ルビーガス田)	インドネシア	PS	100%	生産中
・ナトゥナ石油	南ナトゥナ海B鉱区	インドネシア	PS	100%	生産中
・MI Berau B.V.	ベラウ鉱区(タングーLNG)	インドネシア	PS	44%	生産中
・インペックスマセラアラフラ海石油	マセラ鉱区(アバディ)**	インドネシア	PS	51.9%	開発準備作業中
・サウル石油	バユ・ウンダン	チモール海共同開発地域	PS	100%	生産中
・インペックス西豪州ブラウズ石油	WA-285-P**	オーストラリア	コンセッション	100%	探鉱作業中
・INPEX Ichthys Pty Ltd	WA-50-L(イクシス)**	オーストラリア	コンセッション	100%	開発中
・Ichthys LNG Pty Ltd	イクシスプロジェクト下流事業**	オーストラリア	-	62.245%	開発中
・INPEX Oil & Gas Australia Pty Ltd	プレリユードFLNGプロジェクト	オーストラリア	コンセッション	100%	開発中
・インペックスチモールシー	キタン油田	チモール海共同開発地域	PS	100%	生産中
・アルファ石油	ヴァンゴッホ油田/ヨニストンユニット	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中
・アルファ石油	ラベンスワース油田	オーストラリア	コンセッション	100%	生産中

注: \* 2015年10月末時点  
 \*\* オペレータープロジェクト

42

# 主要会社一覧及び石油契約②\*

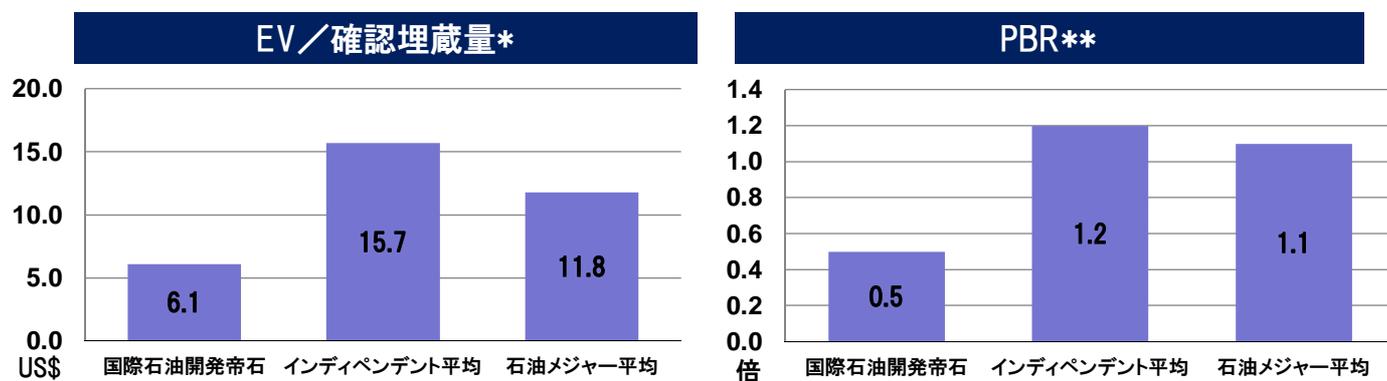
会社名	鉱区名又はプロジェクト名	国名	石油契約	出資比率	ステージ
<b>ユーラシア</b>					
・インペックス南西カスピ海石油	ACG油田	アゼルバイジャン	PS	51%	生産中
・インペックス北カスピ海石油	カシャガン油田	カザフスタン	PS	45%	生産停止中
<b>中東</b>					
・ジャパン石油開発	ADMA鉱区(アッパーザクム油田等)	アラブ首長国連邦	コンセッション	100%	生産中
・JODCO Onshore Ltd.	ADCO鉱区	アラブ首長国連邦	コンセッション	51%	生産中
<b>アフリカ</b>					
・帝石コンゴ石油	コンゴ民主共和国沖合鉱区	コンゴ民主共和国	コンセッション	100%	生産中
・INPEX Angola Block14	アンゴラ共和国沖合ブロック14鉱区	アンゴラ共和国	PS	100%	生産中/開発中
<b>米州</b>					
・INPEX Gas British Columbia	カナダ シェールガスプロジェクト	カナダ	コンセッション	45.09%	生産中/評価中
・テイコク・オイル・アンド・ガス・ベネズエラ	コパ・マコヤ**/グアリョリエンタル	ベネズエラ	ジョイントベンチャー	100%	生産中
・Teikoku Oil (North America)	SS72鉱区等/ルシウス油田	米国	コンセッション	100%	生産中
・Frade Japão do Petróleo Limitada	フラージ鉱区	ブラジル	コンセッション	37.5%***	生産中

注: \* 2015年10月末時点  
 \*\* オペレータープロジェクト  
 \*\*\* インペックス北カンボス沖石油(当社の持分法適用関連会社)の子会社。出資比率(37.5%)は同社を通じた当社の実質的な比率。

43

## その他

## 当社Valuation指標



- \* EV(企業総価値)/確認埋蔵量=(時価総額+総有利子負債-預金及び現金同等物+非支配株主持分)/確認埋蔵量。時価総額は2015年9月30日時点、財務数値は、当社は2015年9月末時点、インディペンデント、石油メジャーは2015年6月末時点数値を使用。また、確認埋蔵量は、当社は2015年3月末時点、インディペンデント、石油メジャーは2014年12月末時点数値を使用。財務数値、確認埋蔵量は各社開示資料より。
- \*\* PBR = 株価 / 一株当たり純資産。時価総額は2015年9月30日時点、財務数値は、当社は2015年9月末時点、インディペンデント、石油メジャーは2015年6月末数値を使用。財務数値は各社開示資料より。

## 3つの成長目標と今後5年間の重点的取り組み

1. 上流事業の持続的拡大  
→2020年代前半にネット生産量日量100万バレル
2. ガスサプライチェーンの強化  
→2020年代前半に国内ガス供給量25億m<sup>3</sup>
3. 再生可能エネルギーへの取り組み強化  
→研究開発、事業化への取り組み

## 3つの基盤整備と目指す企業像

1. 人材の確保、育成と効率的な組織体制の整備
2. 成長のための投資と適切な株主還元
3. グローバル企業としての責任ある経営

46

## 投資計画と資金調達手段

**総額約3.5兆円** (2012年5月発表)

イクシス、アバディ、その他探鉱開発プロジェクト等に対する  
5年間 (2013年3月期～2017年3月期) の投資額

### 手元資金

- 手元活用可能資金7,690億円 (2015年9月末現在)

### キャッシュフロー

- 毎年の営業キャッシュ・フロー (参考：2015年3月期実績 2,167億円)
- 手元の現金及び現金同等物

### 銀行借入

- JBIC\*及び市中銀行からの借入
- 市中銀行借入の一部に対するJOGMEC\*\*による保証
- プロジェクト・ファイナンス

\* JBIC： 国際協力銀行、\*\*JOGMEC： 独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

47

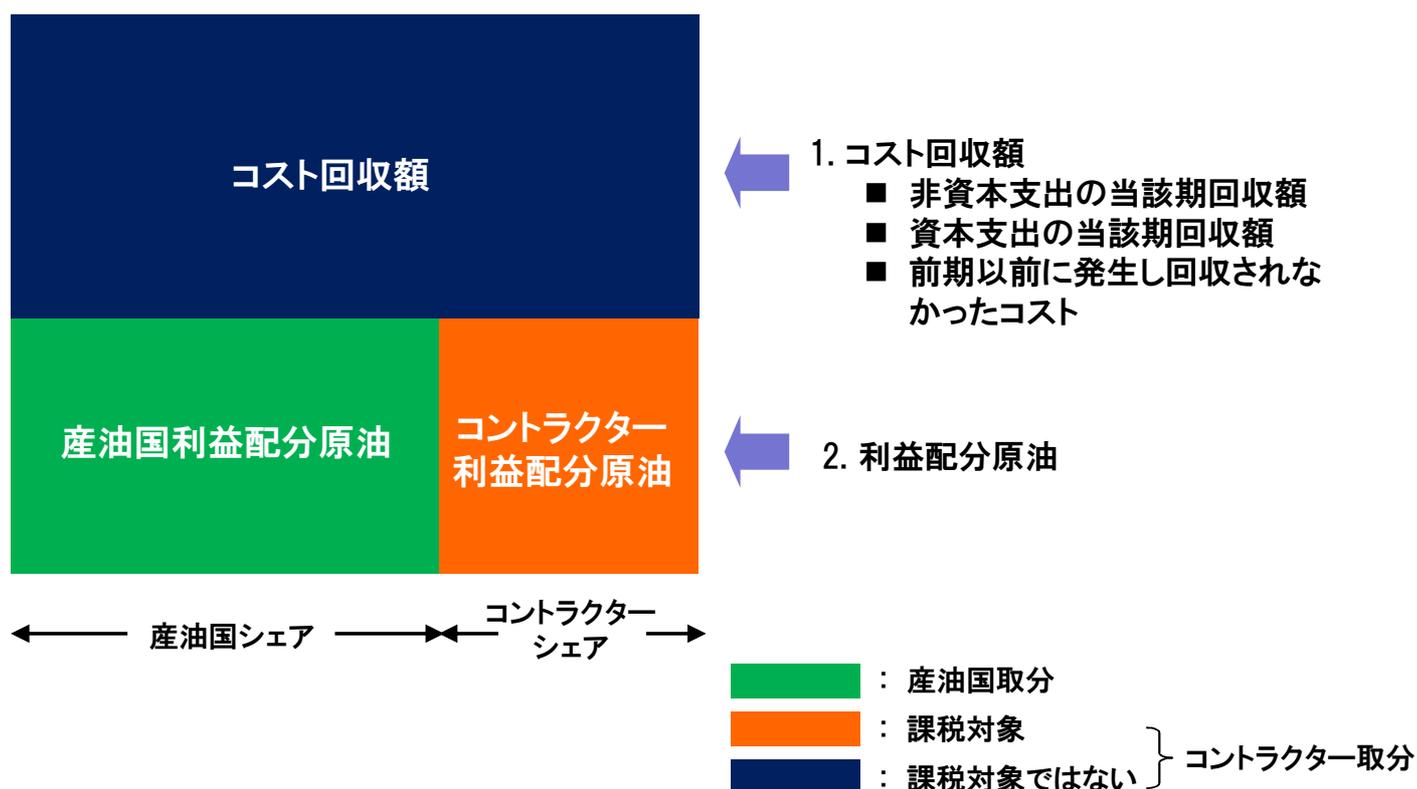
## 低コストでの有利な資金調達

健全なバランス・シートを維持し、  
資金調達の安定性と柔軟性を確保

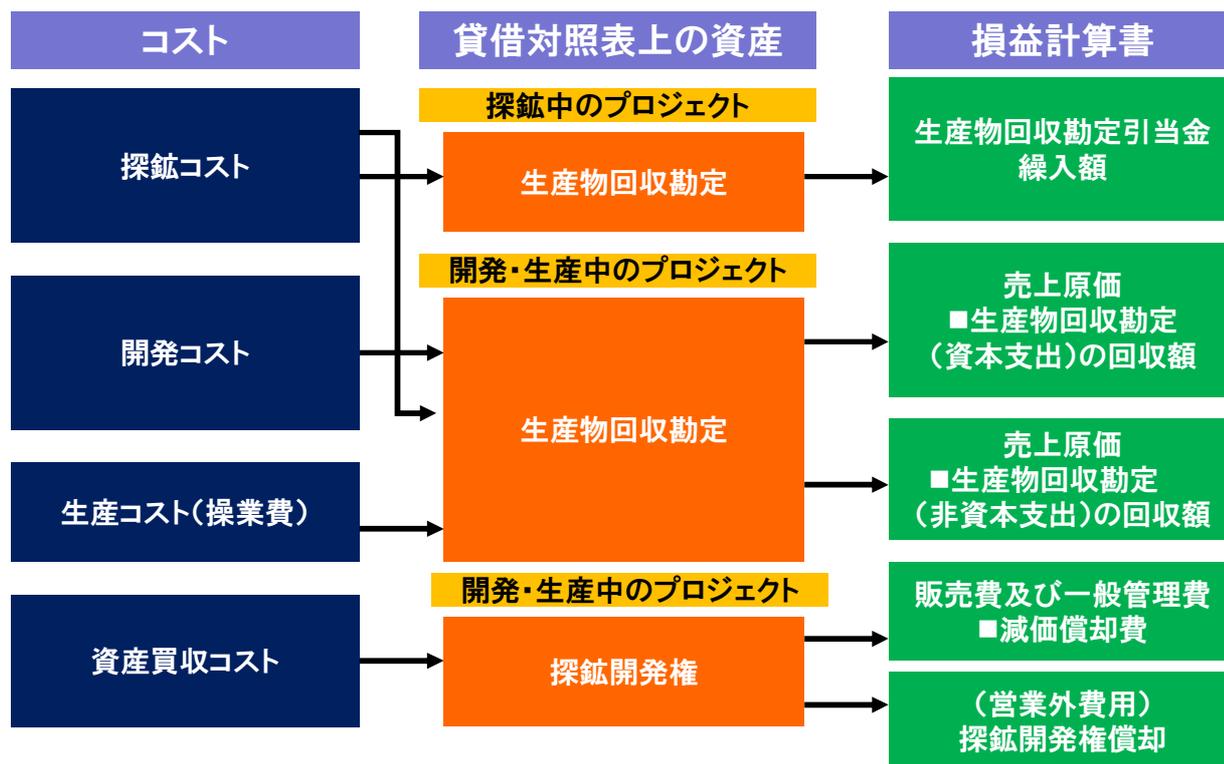
JBIC及びJOGMECの制度金融の  
活用により開発資金を調達

- イクシス、アバディ等に必要な投資を確実にするための資金調達力を維持
- 将来の新規プロジェクトへの継続的な投資を実現するために、健全なバランス・シートを維持
- 長期的財務レバレッジ水準(目標値)
  - 自己資本比率:50%以上
  - 使用総資本に対する純有利子負債の比率:20%以下

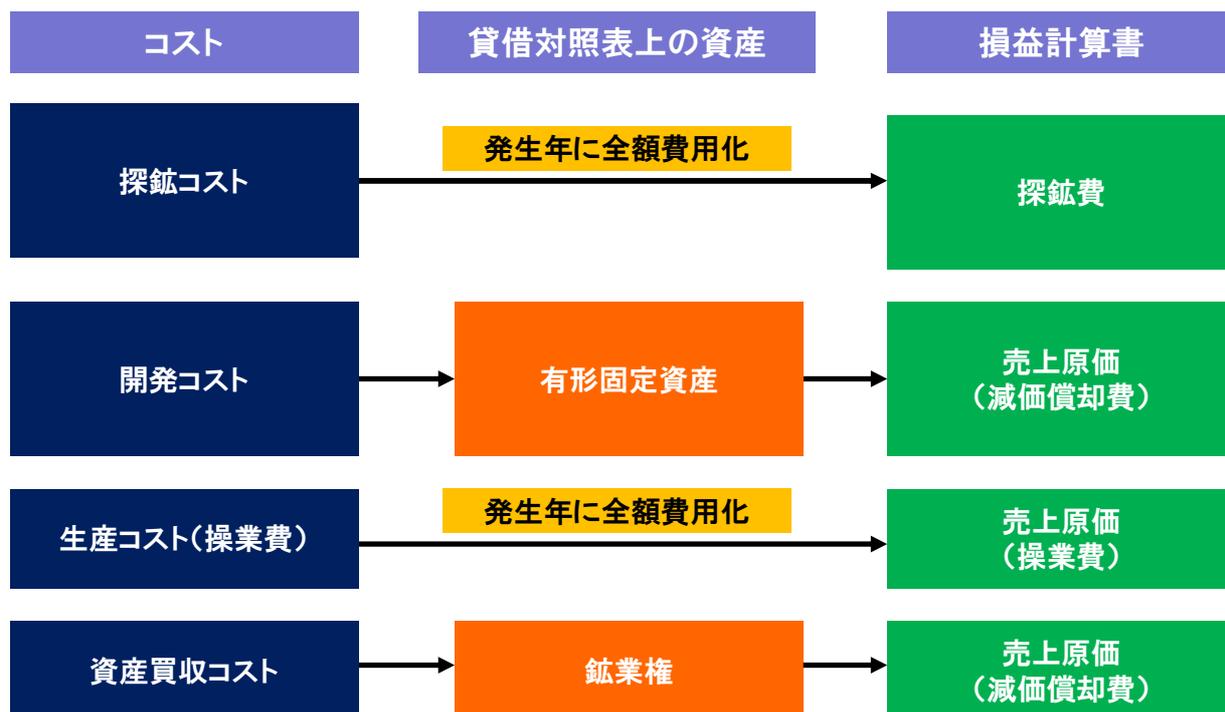
## 生産分与契約



# 生産分与契約に係る会計処理

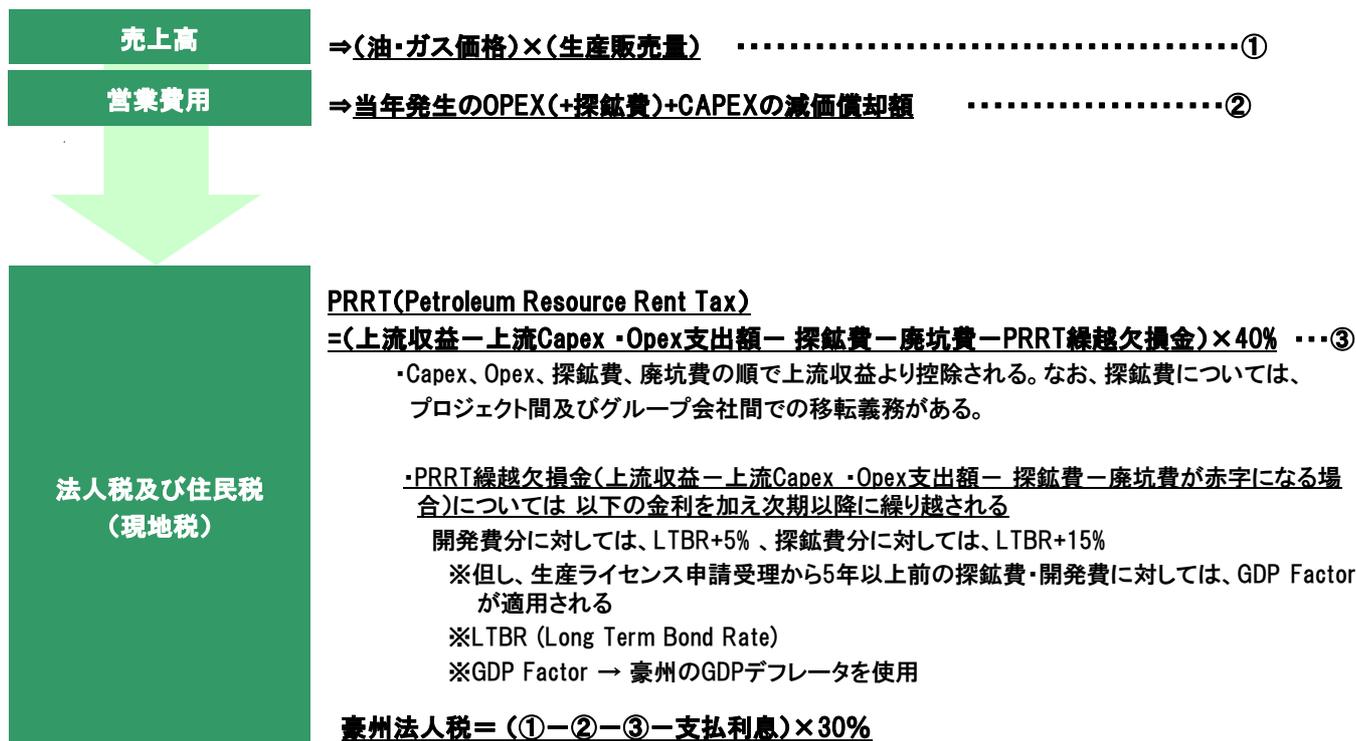


# コンセッション契約に係る会計処理

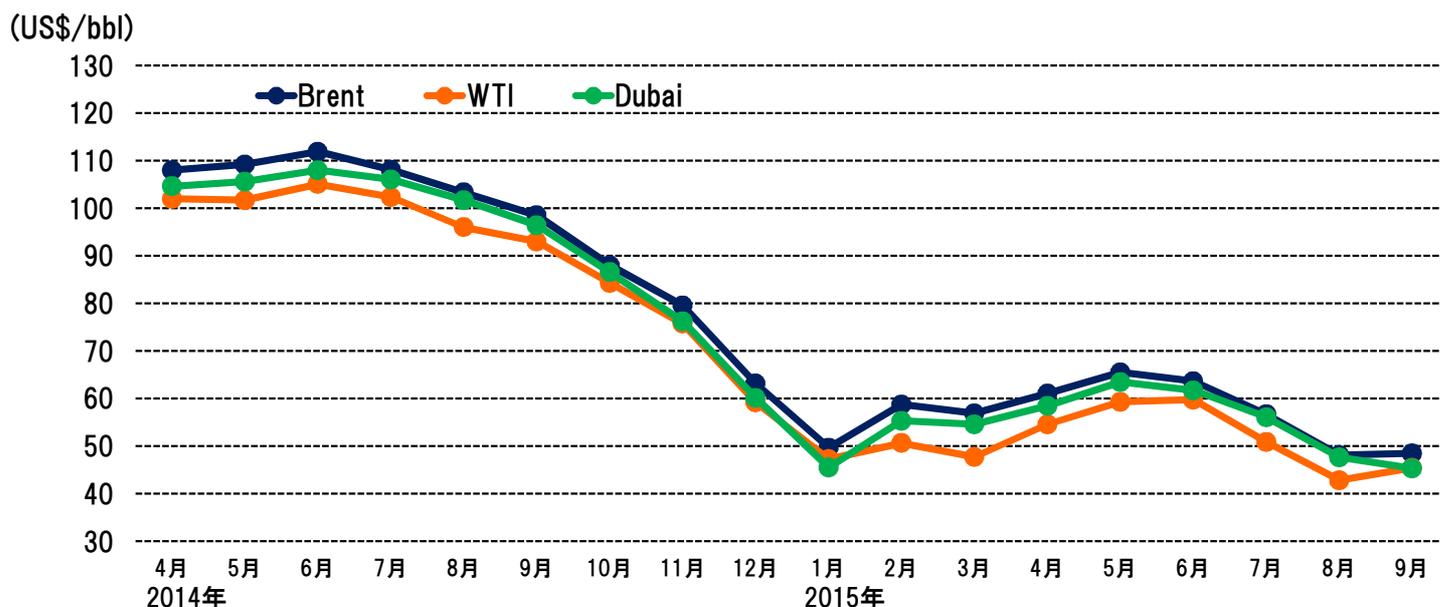


# 豪州税制の概要

※ 本スライドの記載内容については、今後税制の改正等に伴い変更の可能性があります。



# 原油価格の推移



	2015年3月期	2015年3月期	2015年						2016年3月期
	4-9月平均	通期平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	4-9月平均
Brent	106.56	86.57	61.14	65.61	63.75	56.76	48.21	48.54	57.31
WTI	100.08	80.49	54.63	59.37	59.83	50.93	42.89	45.47	52.19
Dubai	103.79	83.47	58.55	63.56	61.79	56.17	47.69	45.38	55.52